

和書撮影マニュアル

撮影に入るまでの準備

- ・撮影台の電燈のスイッチを入れる（※アルバイト作業の最初に行うこと）。
- ・手洗いをし、アクセサリ（時計・指輪など）を外す。
- ・パソコン、カメラのスイッチを入れる。

1. 「進捗システム」にアクセスして作業の進捗状況を確認

進捗管理システム

文庫検索画面
内藤文庫 ◯ 検索

・「文庫献策画面」より、作業する文庫を選択し「検索」
・リストは、「書誌 ID」「請求記号」「書名」それぞれが表示

◆「各文庫の作業状況」を確認する。

- ・ステータスの「状態」から、「撮影中」「撮影完了」「確認中」など作業状況を確認
- ・ステータスを確認後、書棚から該当書籍とチェックシートを取り出し、作業開始

◆特に指示がない限りは、ステータスの順に処理し、これらがすべて終了後、「未着手」の書籍に着手する。

- ① 「 撮 影 」…書籍の撮影、および撮影画像の確認。原則、一人で担当する
- ② 「 確 認 」…撮影（確認）が終了した書籍を別の担当者が画像確認する
- ③ 「 再 撮 影 」…「確認」で画像にミスがあった場合、該当箇所を再撮影
- ④ 「 再 確 認 」…「再撮影」した画像を確認。全て問題なければ「公開」へ

文庫検索画面
内藤文庫 ◯ 検索

文庫ID 書名	状態
L21**7*26-8-235 S.796 莊子	確認
L21**7*26-8-236 S.1393 晋書列傳	撮影
L21**7*26-8-237 S.525 神記 官	公開前処理
L21**7*26-8-238 S.525 神記	

ステータス一覧

「 空 白 」…まだ撮影していない書籍
「 撮 影 」…撮影途中、または撮影が完了した書籍
「 再 撮 影 」…撮影ミスがあった書籍。該当部分を撮りなおす
「 確 認 」…再撮影を含み撮影、および画像確認が終了した書籍
「 公 開 」…全ての作業が終了し、データを公開処理している書籍

※各冊の詳しい状況は「詳細」から確認

【アルバイト撮影作業の一連の流れ】撮影→確認→DB更新 or 再撮影→次の書籍へ...

2. チェックシートの記入

◆チェックシート

- ・書名番号（DBのファイル名、下記画像参照）と書名、作業者名を記入する。
- ・カメラ情報（撮影台の高さ、ズーム率、シャッター、F値など）を記入する。

3. 保存先フォルダを作成

①デスクトップに「新しいフォルダ」を作成。フォルダ名は「書籍の請求番号」。

※このフォルダは作業用の一時フォルダなので、一日の撮影終了後に必ず削除する

②書誌IDは進捗システムを見て確認する。

※請求番号の*はハイフン（-）に置き換える。例：L21**7*26-8-235→L21-7-26-8-235

進捗管理システム

文庫検索画面

内藤文庫 ▾ 検索

文献ID 書名	状態
L21**7*26-8-235 S.796荘子	確認
L21**7*26-8-236 S.1393晋書列傳	撮影
L21**7*26-8-237 S.525□神記□? 官□□	公開前処理
L21**7*26-8-238 S.525□神記	

整理番号 → 所蔵文庫 → 保存先フォルダの名前

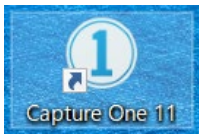
LI2 → 岩崎 → Iwasaki
MA → 鱒澤 → Masuzawa
IN → 乾 → Inui
MU → 松浦 → Matsuura
SH → 沈 → Shin
CLG / LG → 玄武洞 → Genbudou
CLY / LY → 吉田 → Yoshida
CL25 / L2 → 広瀬 → Hirose
CLM / LM → 増田 → Masuda
CL23 / L23 → 長澤 → Nagasawa
CL21 / L21 → 内藤 → Naito
CL24 / L24 → 中村 → Nakamura
CLH2 / LH2 → 泊園 → Hakuen
東西研ラベル → 東西研 → Tozaiken
C2 / C / N / 数字のみ → 一般書 → Ippan
UC / OZ → 尾崎・内田（和書） → OcUz_washo
UC / OZ → 尾崎・内田（洋書） → OcUz_yosho

※上表以外にイレギュラーで撮影する書籍がある。

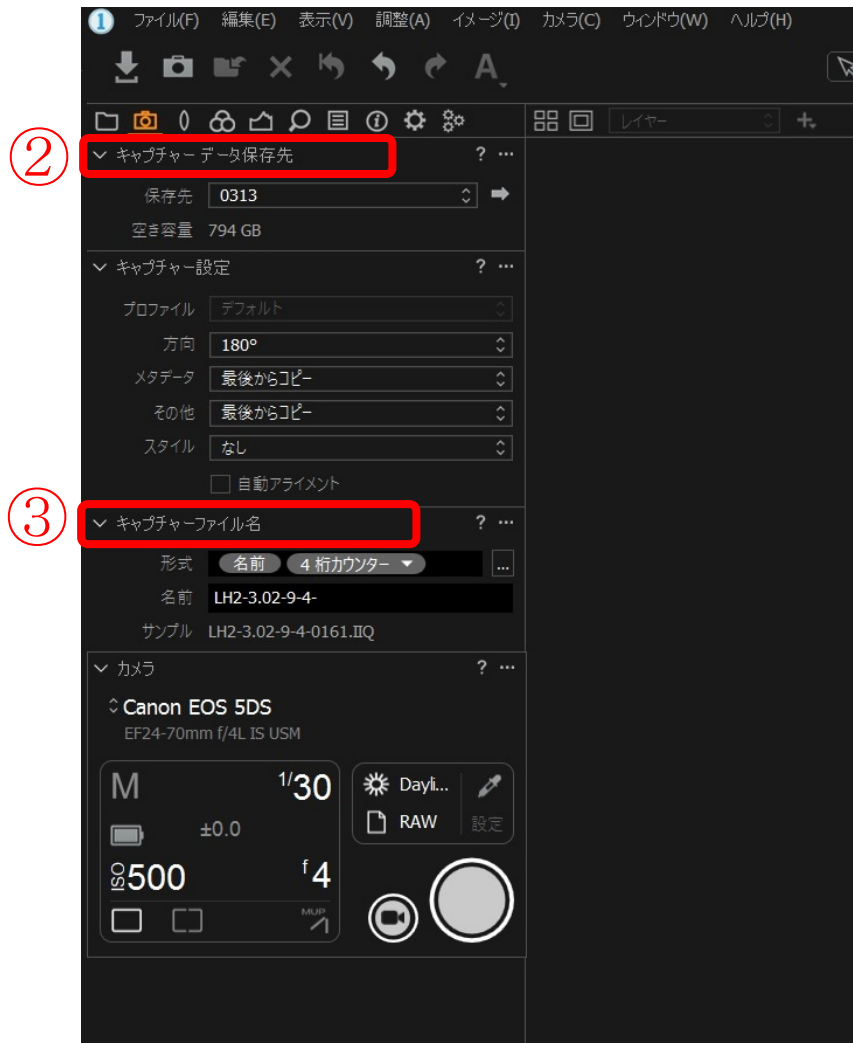
注意 名前の付け間違いが多いため、請求番号、文献IDをしっかりと確認すること。

注意 再撮影のときは、該当するフォルダを探して、撮影状況を確認し、撮り直すページ番号を確認して撮影すること。

4. ファイル名、保存先フォルダの設定



- ① デスクトップから「Capture One 11」を起動する。
- ② 「キャプチャーデータ保存先」から撮影データの保存先フォルダを指定。
(「保存先」 → 「フォルダを選択」)
- ③ 「キャプチャーファイル名」の項目で名前を設定する。
(「形式：名前、4 カウンター」を選択、「名前：書籍の名前」を入力)



5. カメラの設定（1冊ごとに作業の最初に行う。同一日に同一枚・同一シリーズの場合は省略可）

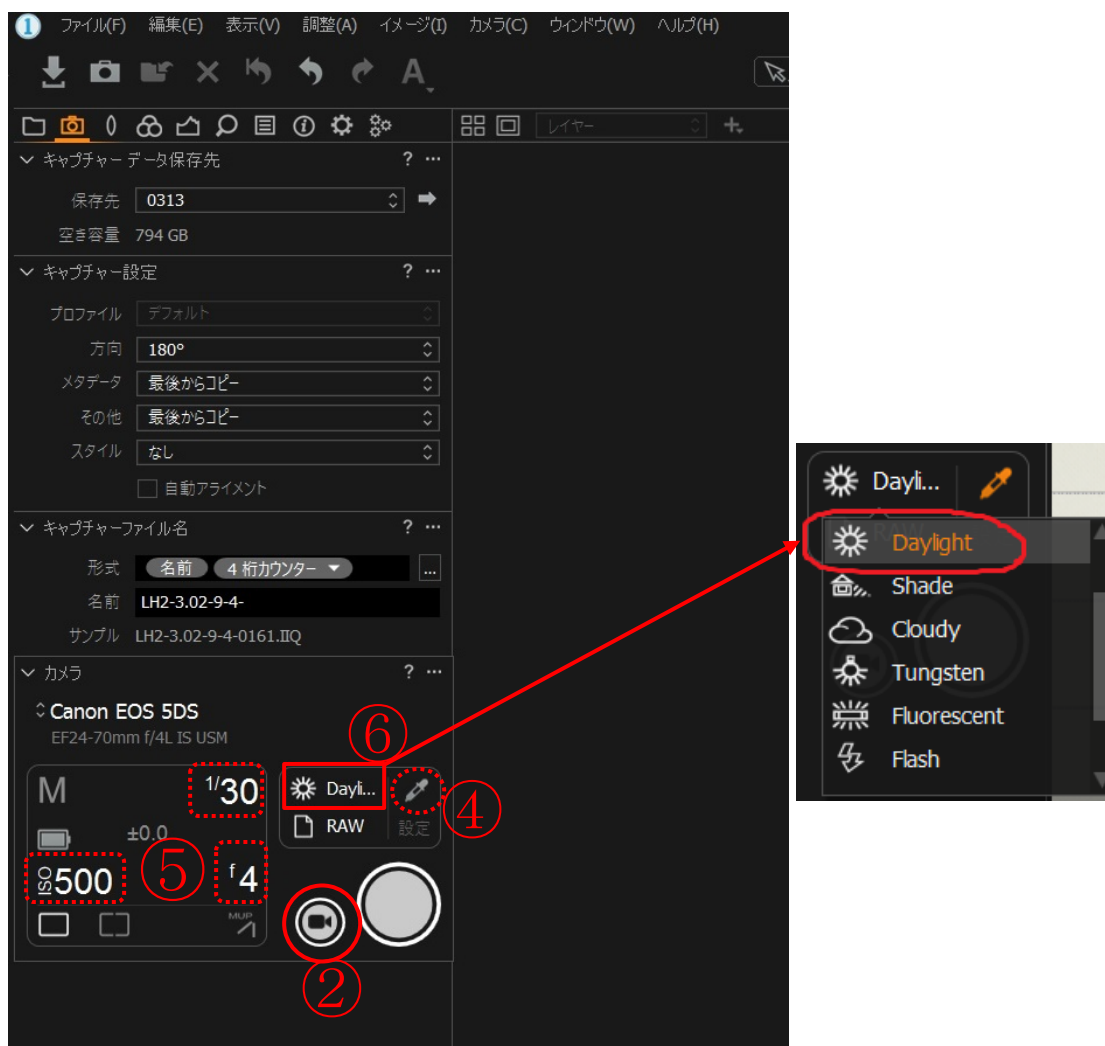
- ①カメラの電源が入っていることを確認する。
- ②「カメラ」項目にある「ライブビュー」マークをクリック。
- ③撮影台のロックを外し、カラーチャートを置いて、カラーチャート単体を撮影する。
- ④撮影したカラーチャート画像の白色部分に「スポイトマーク（ホワイトバランスの調整）」を合わせて、画面上中央に表示される色の数値を確認する。
- ⑤色の数値を「225 前後」に調整する。
→カメラの「シャッタースピード」「絞り値（F 値）」「ISO」を変更して色の数値を「225 前後」に調整する。
- ⑥ ホワイトバランスが「Daylight」であることを確認。

注意 保存フォルダの設定、カメラの電源が入っていないとライブビューは起動しない。
ライブビューが起動すると、別ウインドウが表示される。→作業中は別ウインドウを使用

注意 設定した数値をメモしておくこと。

注意 ライブビューを閉じて設定すると、ライブビューを開いた時に設定が変わる可能性あり。

注意 和書撮影台はバネで勢いよく跳ね上がるため、必ず手で押さえながらロックを外すこと。



6. 資料の設置から撮影まで

- ①カメラに取り付けられている水平器に傾きがないかチェック
- ②ライブビュー画面に表示されるグリッド線を「長辺 15 マス×短辺 12 マス」に調整
(左上の「編集」→「環境設定」→「クロップ」→「グリッド」から設定)



- ③撮影台に書籍を配置して、書籍の位置を画面のグリッド線に合わせる。

(上下 1 マス空け、ライン上に本の上下を合わせ、縦中央の青いラインに本の中央がくるように合わせる)

→カメラの高さを調節して合わせる。

注意 書籍サイズが小さい場合は監督者に相談すること。

注意 カメラをズームしすぎると画像の歪みが大きくなるため、できるだけカメラ上下で対応させる。

- ④カメラの調整ができたなら、カメラ位置情報・レンズの種類をチェックシートに記入する。

- ・カメラ位置情報→カメラの設置位置の高さを記入する。(下側のメモリ)
- ・レンズの倍率→70mm に固定 (無理な時は倍率を変更しても良い)

注意 倍率変更可能なレンズを使用する場合、作業等で微妙なずれが発生するので、必ず「70」の部分にメモリをあわせて、再調整すること。

- ⑤書籍・カバーガラス・撮影台に「ごみ」がついていないかをチェック。

ある場合は、ブローア等で除去する。

- ⑥「AF」をクリックし焦点を合わせる。

注意 デジタルカメラは色の差がない場所 (白紙など) では焦点が合いにくい。

※どうしても焦点が合わない場合は、文字が書かれた紙などを挿し込んで「AF」でピントを合わせた後、「MF」に切り替えシャッターを押す

- ⑦「撮影」をクリックし撮影を開始する。もしくはフットスイッチを使用。

※撮影したらすぐに画像に、ピンボケ・傾き・紙の折れやはみ出しがないか確認して、問題がなければ撮影を続ける。

注意 書籍とガラスの間に隙間があるとボケる。

→カバーガラス面と書籍が密着するよう 3 つのレバーで高さを調節する。

- ・カバーガラスに本を押し付け過ぎないように注意→本やガラスの破損原因になる
- ・レバーで高さを変えると写真で本が移動したように見えるので、レバー移動前後の写真をよく見比べ、本の位置のズレに注意

7. 撮影の終わった書籍の確認作業

◆撮影後、14 ページの「**撮影時及び確認時の注意事項**」を参照しながら、撮影画像と書籍の照合を行う。

注意 原則として、撮影・確認は撮影者一人が一日のうちに通し作業で行うこと。

注意 できる限り、ディスプレイの大きなパソコンを使用して確認作業をおこなうこと。
※編集用パソコンを使用し、ゴミや画像の歪み等を確認。

8. ファイル名の変更

撮影した画像に重複や取り忘れないかを確認し、画像ファイルが通し番号であることを確認する。

9. 撮影データの移行

一日の作業終了後、デスクトップに作成したフォルダを HDD に保存する
(撮影台と同じ番号の HDD に保存)

10. 「進捗システム」にアクセスして進捗状況を記録

◆進捗状況は、一つの作業を終えるごとに入力する。

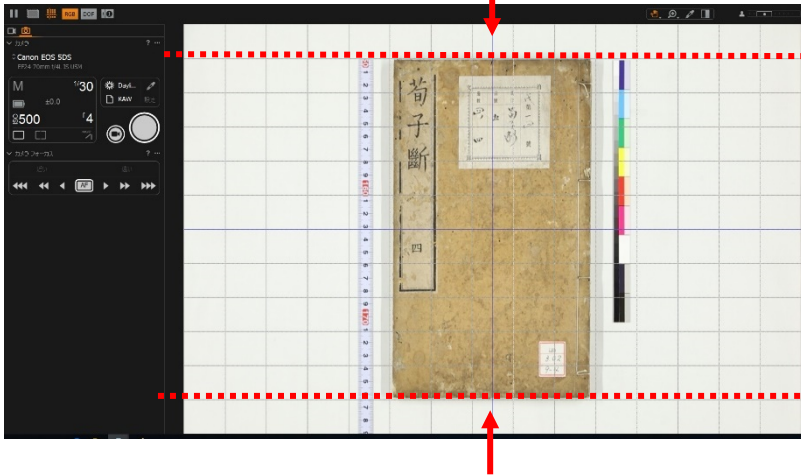
※メモ欄は、通常とは違う撮影状態などの特記事項（「白紙が半分しか入れられない」、「真ん中の文字が書籍の状態により撮影できない」など）を記入。メモ欄に記入するときは、**名前と日付も一緒に記入**すること。

注意 撮影が途中の場合も進捗を記録し、「作業中」というメモをチェックシートのファイルに挟む。

文庫検索画面					
内蔵文庫 ▾		検索			
文献ID 書名	状態	ユーザ名	作業日時	memo	
L21**7*26-8-235 S.796 莊子	確認	ninomiya	2019-03-05 10:07:58		詳細
L21**7*26-8-236 S.1393 晋書列傳	撮影	ninomiya	2019-03-05 10:08:04		詳細
L21**7*26-8-237 S.525 神記 官	公開前処理	ninomiya	2019-03-05 10:08:26		詳細
L21**7*26-8-238 S.525 神記					詳細

《表紙から3ページ目までの撮影方法》

表紙

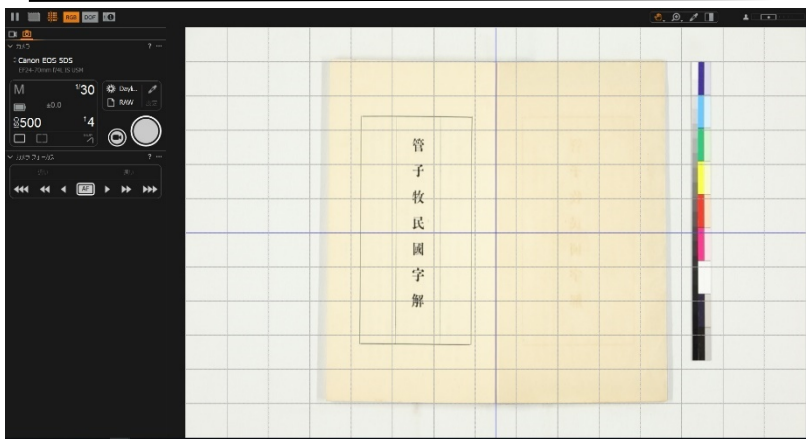


上下1マス目のラインに本の上下を合わせ、縦中央の青いラインに書籍の中央を合わせる

注意 左から定規（上端が小さい数字、書籍よりも長いもの）・書籍・色見本（紫色が上端にくるように右上）の順に置く

※定規や色見本は、書籍から1cmほどの距離に配置する。

2 ページ目



上下1マス目のラインに本の上下を合わせ、縦中央の青いラインに「のど」を合わせる

注意 書籍と色見本のみを置いて撮影をする

3 ページ目以降



書籍のみを置いて撮影する

注意 3 ページ目も白紙ページだった場合は、2 ページ目と同様に色見本を置いて撮影する。

※文字があるページ（見開き・冒頭）まで色見本を置いて撮影する。



注意 上から定規・書籍・色見本の順に置く。

※定規や色見本は、書籍から1cmほどの距離に配置する。

《帙の撮影方法》※原則撮影しない

①書込みや付箋がある帙は、表紙の撮影方法と同様に、定規と色見本を置いて撮影する。



②保存先は、該当する書籍のフォルダ内に新たに「帙」フォルダを作成し、その中に画像を保存する。



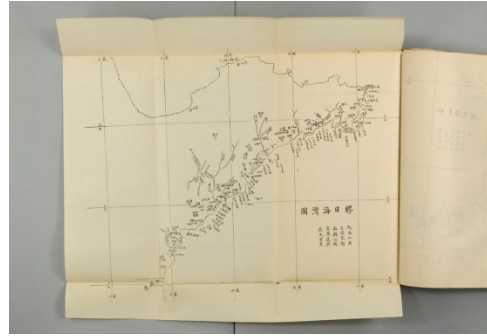
注意 ただし、泊園文庫蔵書については書き込みの有無にかかわらず、全ての帙を撮影すること。

《折り込みものの撮影方法》

①まず閉じた状態で撮影する。



②折り込みを開いて撮影する。



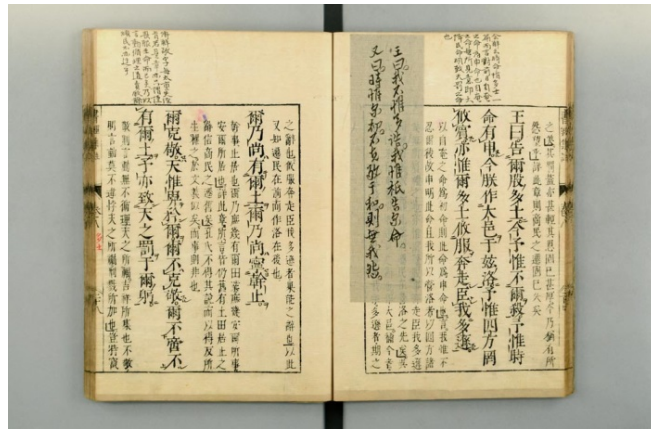
③折り込みのサイズが大きく1回で撮影できない場合は分割して撮影する。



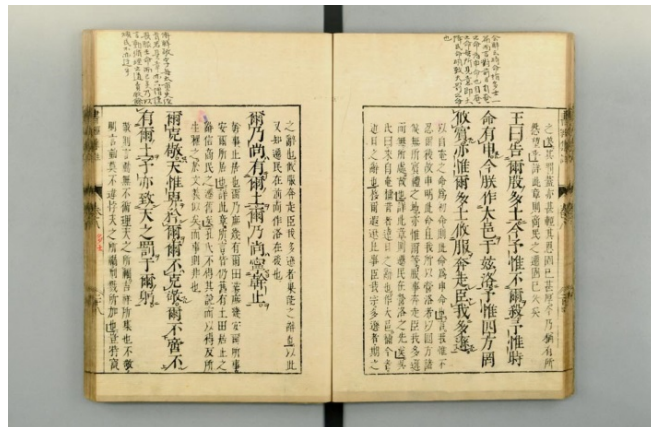
注意 分割部分は2~3cm程度重複して撮影するようにする。

《はさみものの撮影方法》

① はさみものを乗せた状態で撮影する。

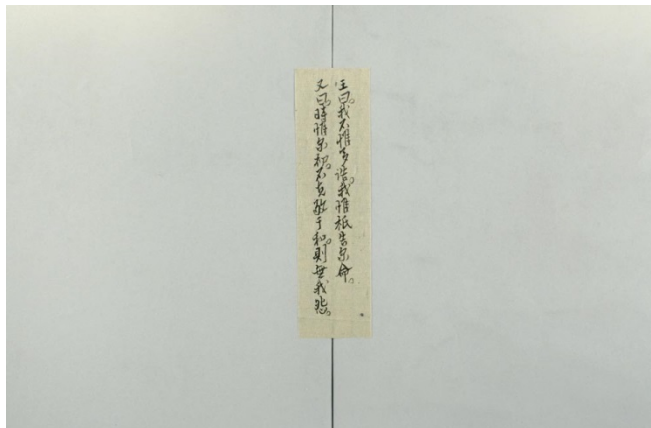


② はさみものを外した状態で撮影する。

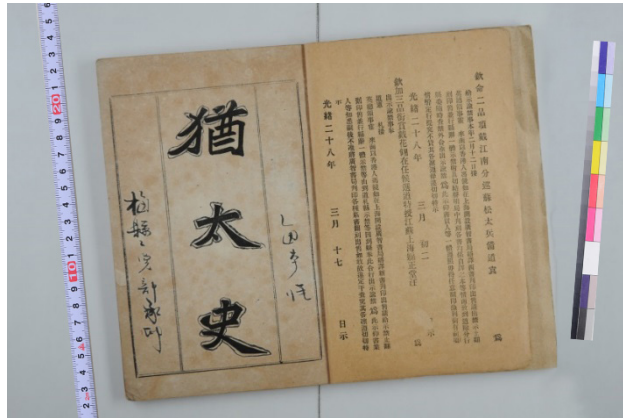


注意 書籍に糊付けされている場合は、外さずに持ち上げて撮影する。

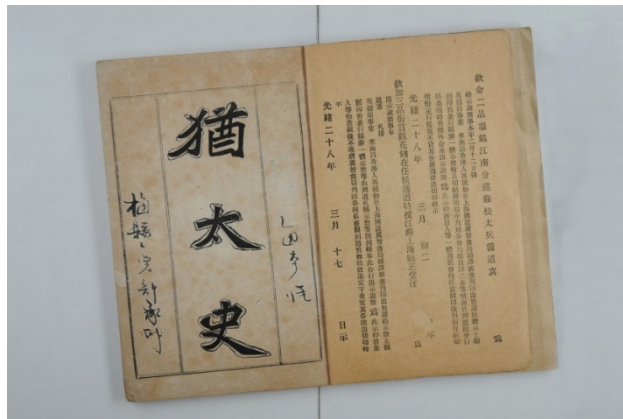
③ はさみものだけを、台の中心において撮影する。



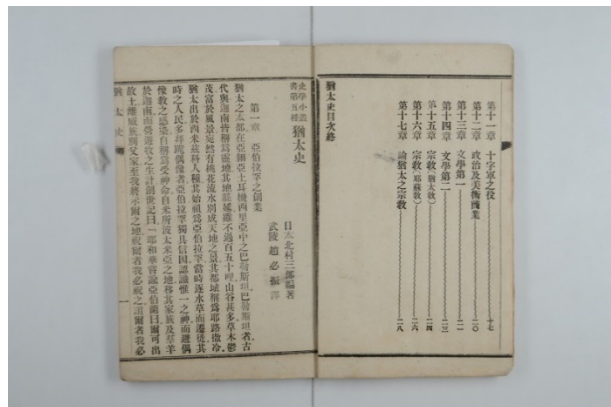
《よくある撮影ミス》



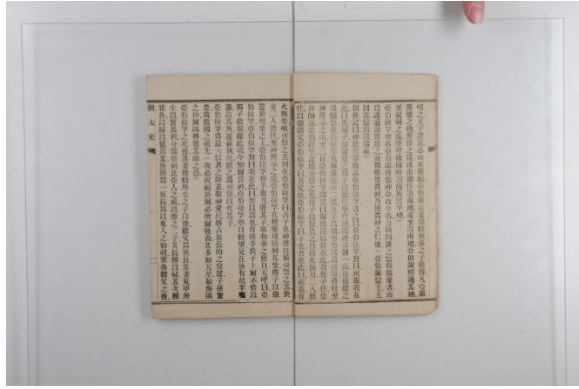
定規の向きが上下逆、定規や色見本が傾いている、位置がおかしい。



書籍が傾いている。



ごみがある。

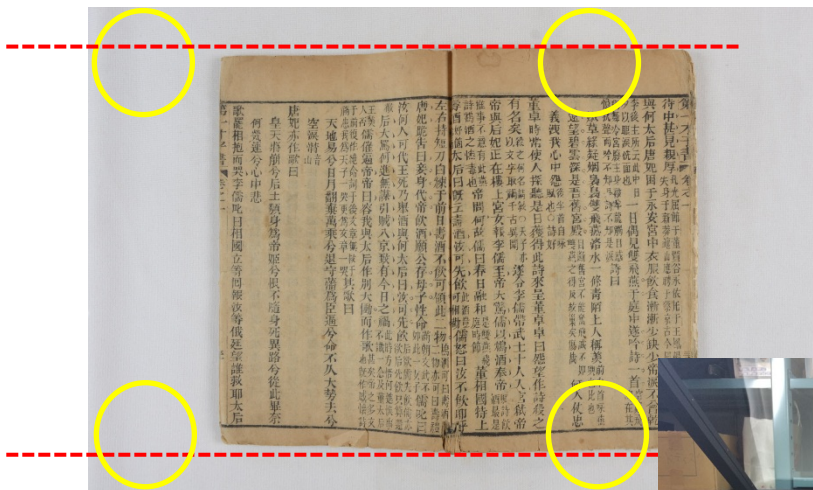


指や衣服が映り込んでいる。



ぼけている。

《新撮影台の注意点》



書籍の左右の高さが不均一。

※レバーで高さを調節して書籍をできるだけ平行にする。



《撮影時及び確認時の注意事項》

- 撮り忘れのページがないか。
- ページが重複していないか。
- ピンボケしていないか。(撮影台の高さを調整)
- ごみが映り込んでいないか。(書籍・ガラス・撮影台のチェック)
- 背紙が出ていないか。
- 書籍が真ん中にあるか。(左右だけでなく上下の位置もチェック)
- 定規と色見本の位置が合っているか。
- 撮影したページに折れがないか。
- 裏写りが激しい場合は背紙を挟み込んで撮影すること。
- 「整理済タグ」や「番号タグ」などのタグが付いている書籍のタグを挟み直したか。
- 書籍由来の紙屑が出た場合は、ふせんをはさんで、クリアファイルに一時保管する。(ゴミではない)
- チェックシートを作成し、書籍と一緒にしているかどうかの確認する。
- データベースに進捗状況を記録したか確認する。

- パソコン画面に表示される中央グリッド線と本ののどの中心線をあわせること。

《その他の注意事項》

- 書籍が傷みそうな場合は撮影前に RA に確認する。
- 撮影時に一部破損した場合、その部分をテープで貼ったり、ごみ箱に捨てたり決してしない。またその事実を RA に連絡する。
- ガラスが割れた場合は速やかに RA に連絡する。
- 飲料水など部屋に置いたままにせず持ち帰る。原則忘れてかえった飲料水は全て破棄する。
- 作業が終了した書籍は必ず本棚に戻す。机の上に置きっぱなしにしない。
- 撮影終了時にカメラの電源を切り、レンズカバーを必ず付けること。
- 備品類を元の場所に戻す。
- 和書撮影台はバネで勢いよく跳ね上がるため、必ず手で押さえながらロックを外す。